

平成 30 年度 第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会
議 事 録

日 時：平成 30 年6月8日(金) 10 時 00 分～11 時 00 分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：青山貴志(宮の森まちづくりセンター所長)、國松明日香(彫刻家)、斎藤義晶(札幌市市民文化局文化部文化振興課長)、四釜みちこ(札幌市立大倉山小学校PTA副会長)、渡辺寛志(札幌市立三角山小学校校長)、寺嶋弘道(本郷新記念札幌彫刻美術館館長) 以上6名

欠席委員：吉田重弘(宮の森明和会会長)

事務局：垣内陽子(本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長)、山田のぞみ(同業務係事務職員)

- 次 第： 1 開会
2 平成 30 年度委員紹介
3 議事
(1)平成 30～34 年度美術館運営の基本方針について
(2)平成 30 年度事業計画について
(3)意見交換
(4)その他
4 閉会

当日配付資料：

- ・平成 30 年度第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・平成 30 年度本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会委員名簿
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館運営の基本方針
- ・平成 30 年度本郷新記念札幌彫刻美術館事業計画
- ・平成 30 年度開催事業チラシ(5 種)

議事内容：

(1)平成 30～34 年度美術館運営の基本方針について

事務局より配付資料に基づき、札幌市からの指定管理期間である平成 30～34 年度の美術館運営の基本方針について説明をおこなった。

- ・國松委員：本郷新を顕彰する上で、本郷の思想は戦後の芸術を考える時欠かせない点であるので、基本方針に調査研究を盛り込んだことは重要だ。西区民センターでの展覧会に 400 人を超える来場者数があったのは、素晴らしい成果。アンテナ・ショップのように、美術館まで来てもらうきっかけとなる企画を続け、本郷新を顕彰していくことが必要だと感じる。
- ・斎藤委員：指定管理者制度の対象となる施設であるが、施設の管理だけではないことから非公募となっている。これまでの積み重ね、人脈を活かし、運営を継続してもらいたい。

(2)平成 30 年度事業計画について

事務局より配付資料の平成 30 年度事業計画について説明した。

- ・青山委員:開催中の加藤宏子展について、解説パネルがあり鑑賞がしやすかった。
- ・渡辺委員:子ども達は粘土による制作が好きで、皆が経験している。芸術家にならなくても趣味として関心を持つよう広めていく方法もあるのではないだろうか。
- ・四釜委員:加藤宏子展関連事業・子どもワークショップ「見えないものをかたちにしてみよう」の粘土制作は良い内容だった。

(3)意見交換

事務局より、前回の運営協議会で上がった意見をもとに、札幌西高等学校との連携を図るため、同校を訪問したこと、及び宮の森緑地を活用した彫刻設置の考え方について札幌市に確認したことについて報告がなされた。宮の森緑地については、現状、具体的な作品設置の話があるわけではないので、今後の利活用にあたって課題意識を持つ必要があることを確認した。